

大山街道八王子道ウォーク

第14回小野宮前バス停からメ引バス停・・大山阿夫利神社下社（計画）

集合 本厚木駅改札口 午前9時15分

歩行距離 約8km（メ引バス停まで約6km、大山ケーブル駅～阿夫利神社下社往復約2km）

第14回小野宮前バス停からメ引バス停・・大山阿夫利神社下社

実施日 2022（令和4）年11月9日（水）天候 晴れ 風は冷たい

参加者 折本 文雄、前北 勝司、中田 信義、中島 征雄 計 4名

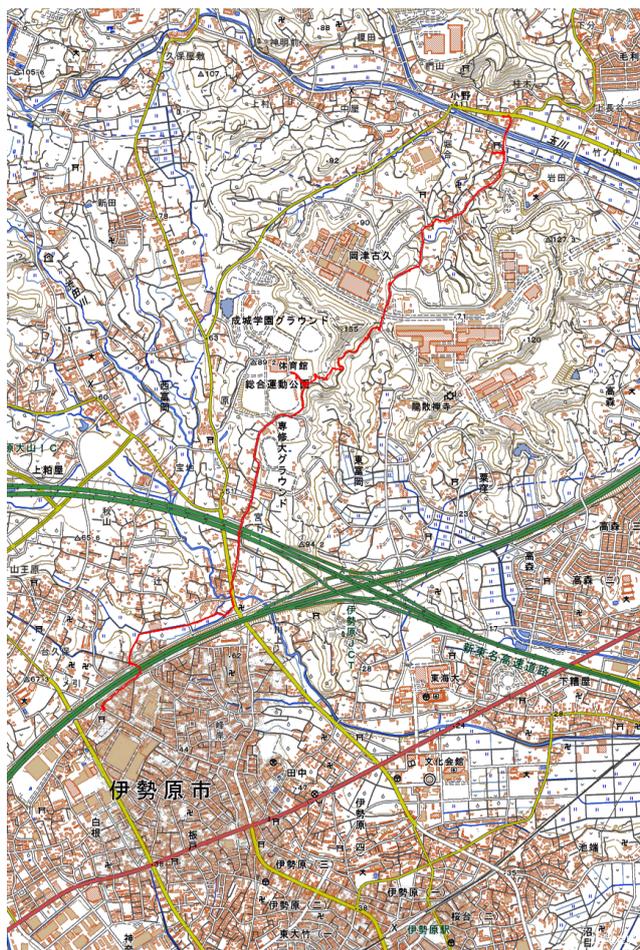
GPSデータ（メ引バス停まで）

歩行距離：5.3km。累計歩行距離 126.9km。

全体所要時間：2時間05分。移動時間：1時間34分。停止時間：31分。

移動平均速度：3.36km/h。全体平均速度：2.54km/h。

[大山ケーブル駅バス停⇔往復⇔大山阿夫利神社下社 歩行距離：約1.6km。]



コース 厚木バスセンター9番乗り場神奈川リハビリ行き8時10分⇒8:37小野宮前バス停

出発8:40～8:46小野神社8:51～9:12津古久峠標識～9:18自然散策路入口～

9:22津古久峠茶屋跡～9:39総合運動公園9:54～新東名高速道路10:12～東名高速

道路10:19～道祖神10:30～10:38メ引バス停

メ引バス停10:46→11:06大山ケーブル駅バス停～こま参道～11:25ケーブル駅追分

11:40⇒11:46ケーブル下社～11:50阿夫利神社下社～12:20ケーブル～お食事

処かんき楼～大山ケーブル駅バス停13:46→伊勢原駅

写真は 2019（令和元）年12月3日と本日のものを使用。

昨日からすっきり晴れ、夕べは442年ぶりの皆既月食・天王星食の共演もあり、今日も朝からハイキング日和。いつも参加されている伊藤さんは体調により欠席（今後の参加もできないとのこと）のため、今日は4名。7時50分頃に集合したのでバス停・厚木バスセンターに向かう。



厚木バスセンター9番乗り場

予定の一本前8時10分発の神奈川リハビリ行きのバスに乗り、8時37分小野宮前バス停で降りる。8時40分に出発。



前にローソンがある小野宮前バス停から県道を戻り、直ぐの交差点を右折する。玉川に架かる宮前橋の上から大山が良く見える。橋を渡り100m弱の右側に「小野神社」がある。(8:46~51) s





「小野神社」 境内の掲示板より

この神社は、延長五年（927）の「延喜式」巻九に「相模国式内社の内愛甲郡一座小野神社」と書かれています。

現在の拝殿は、嘉永元年（1848）に建てられ、わら葺屋根でありましたが、昭和四十三年に鉄板葺に替えられました。本殿は拝殿よりも1メートルほど高い地面に神明造りで造られています。

「新編相模国風土記稿」に「閑香明神社（かんかみょうじんやしろ）、村の鎮守なり。延喜式に載りし小野神社、当国十三社の一にて祭神下春命（したはるのみこと）という」とあります。

明治時代になってから、この神社の祭神には日本武尊も加えられました。それは日本武尊が東国の賊を征伐に向かった際、野火の焼きうちの苦難にあうという「古事記」の記述の地が「小野」に関係するとして祭神に加えられたもののようです。

この神社は、建久五年（1194）愛甲三郎によって再興されたとも言われています。愛甲氏の本家の横山氏は、小野妹子の子孫と伝えられ、愛甲氏の家系の信仰は厚く、特に江戸時代には、愛甲姓の武将の参詣が記録されています。



小野神社を出て車道は少しずつ上りとなり、400m程進んだ途中に道祖神や数基の石造仏があり

(8 : 5 7)、街道であったことが分かる。



曲がりくねった急坂を上り、少しなだらかになった丁字路の角に石塔は数基あり (9 : 0 7)、道路整備の時にここに纏められたと思われる。



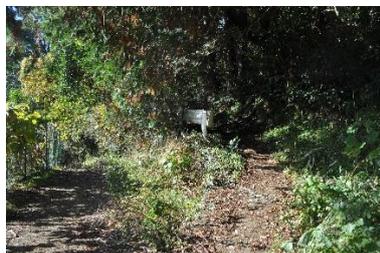
車道は急坂となり、道なりに約300m進んだ十字路の角に「津古久(つこく)峠標柱」がある。
(9 : 1 2)





「津古久峠標柱」には、
『後北条時代に小田原と武蔵を結ぶ小田原道として発達し江戸時代になると大山参りの人々がこの峠を越え大山道として発達した最盛期には峠にお茶屋もあったと伝えられている。』とある。

200m程進んで、道路の下を潜った先右側の道の入口に「自然散策路」の石柱があり（9：18）、
「右へ 東富岡公園 左へ総合運動公園」とあるので、細い道に入り、総合運動公園へ向かう。



道は急坂となり、直ぐに左右に分かれる。街道は右のガードレールがある方の道で、直ぐ先右側に「津古久峠 茶屋跡」の石柱がある。(9 : 22)

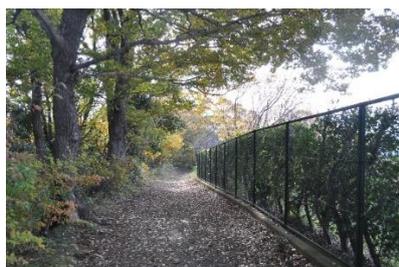


「津古久峠 茶屋跡」の石柱には『小田原北条時代は小田原と八王子を結ぶ軍用道で、江戸時代には大山参りの道となり、ここにお茶屋があった。』とある。

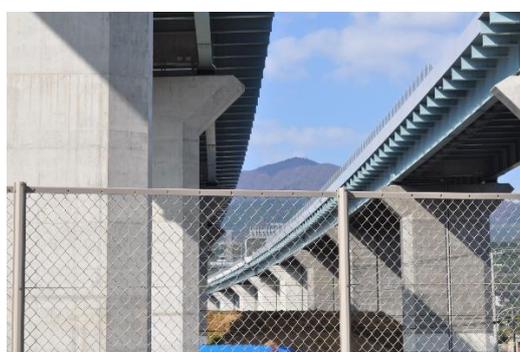
斜面を巻いて進み「運動公園展望広場」の道標に従って階段を上ったが、この道は間違っていて、本当の道はその先にあった。階段は急で皆様には大変苦勞をおかけしました。お詫びします。階段を上り切ったところからの大山の展望は素晴らしく、疲れたが上った甲斐があったのか。伊勢原総合運動公園内でトイレがある子供の広場で休憩をとる。(9 : 39～54)



子どもの広場の南端で旧街道に戻り、野球場沿いに降りると専修大学グラウンドにぶつかるので右折する。道なりに下りて行く途中では大山の山容がよく見える。



新東名高速道路



新東名高速道路

「新東名高速道路」を潜って250m程で県道63号線に合流する。県道の右側を進み、次の信号交差点の少し手前の右斜めへの道に入る。70m程で右の橋を渡り左カーブして農道を進む。
(東名高速道路沿いの道路は歩道は無く、交通量も多いので危険。使わない方が良い)



東名高速道路

農道を450m弱進み、突き当りを左折。160m程の十字路を左折する。この左右の道が2016年(平成28年)9月21日に通った「大山街道」である。



左折して10m程の右側の東名高速道路に沿う道路との角に「道標・道祖神」がある。(10:30)



左の東名高速道路のトンネルを潜り右折。270m程行くと県道61号線(バス通り)に出るので左折。右側に御霊神社がある。



御霊神社



御霊神社（境内の説明板より）

鎮座地 伊勢原市上粕屋七九〇番地

祭 神 天穂日命（アメノホヒノミコト）・少名彦名命（スクナヒコナノミコト）・大己貴命（オオナムチノミコト）・事代主命（コトシロヌシノミコト）・三穂津姫命（ミホツヒメノミコト）・宇迦之御魂（ウカノミタマノカミ）・太田持資（オオタモチスケ）

由 緒

創立は社伝に、大同元年（806）三之宮村御霊原に鎮座したてまつるといふ。略日本紀によれば、太政官は各村国に命じ、各国正税三十束を以て御霊会（ゴリョウエ）を行わせられ京都をはじめ各国に御霊神社を創立せられ、年々、御霊会を行うとある。武蔵総社資料によれば相模の国府祭（コウノマキ）が行われるときは、三之宮比々多神社の神輿が、一旦、御霊神社の神実（カムザネ）を神輿の左の厥手（ワラビテ）につけ、神揃山へ出御すると見え、神実を在庁家へあづけておき、当日、先例に依り、厥手にかけて出御する。諸国分寺誌によれば、各国の府に御霊社のあることを記し相模の部に、今住郡上粕屋七五三引（シメヒキ）に此の社ありと記す。和名抄をみると、相模の国府が大住郡にあったことを記している。按ずるに、当社は彼是取合わせて、時の政令により、当社を御霊会を行う神社として御霊神社と称し、国司の崇敬祭祀せしものである。

明応三年（1494）九月十三日、伊勢新九郎入道早雲は、太田道灌を合せ祀る。宝永年中、三之宮より現在地に移転、社殿を再建す。



御霊神社入口の脇に引バス停がある。10時38分の到着。

この先の大山街道は2016（平成28）年9月21日に歩いているので、今回はバス・ケーブルで大山阿夫利神社を参拝する。

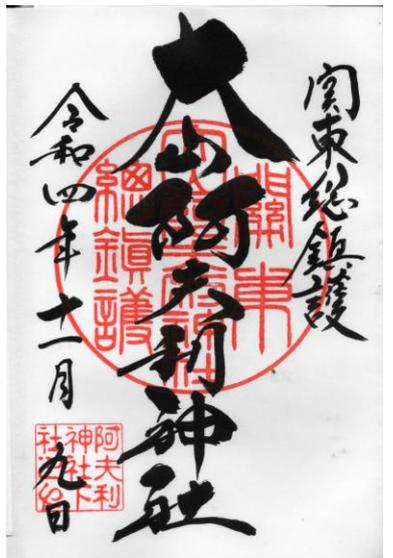
10時46分発（少し遅れて来たが）大山ケーブル駅行きのバス（満員）に乗る。
大山ケーブル駅バス停に11時05分に着き、参道を上る。



バス停から階段の「こま参道」を通り、計382段の石段を上り、バス停から距離約700m、標高差100m位のケーブル・追分駅（標高約400m）に疲れた足を引きずって11:22にやっと着いた。

11:40のケーブルに乗り、約6分で標高680mの下社駅に着いた。標高696mの下社に11:50頃に到着。参拝した。







紅葉の最盛期は今月下旬か。



ケーブルで下り、平成28年のウオークで寄ったお食事処「かんき楼」に入り、昼食とする。当然「湯豆腐」も。

13時46分発のバスで伊勢原駅に向かう。

以上